

# SC 37 活動状況報告

2014/10/7(火)  
産業技術総合研究所  
山田朝彦

## 目次

1. SC 37概要
2. 2014年1月総会報告

## 1. SC 37概要

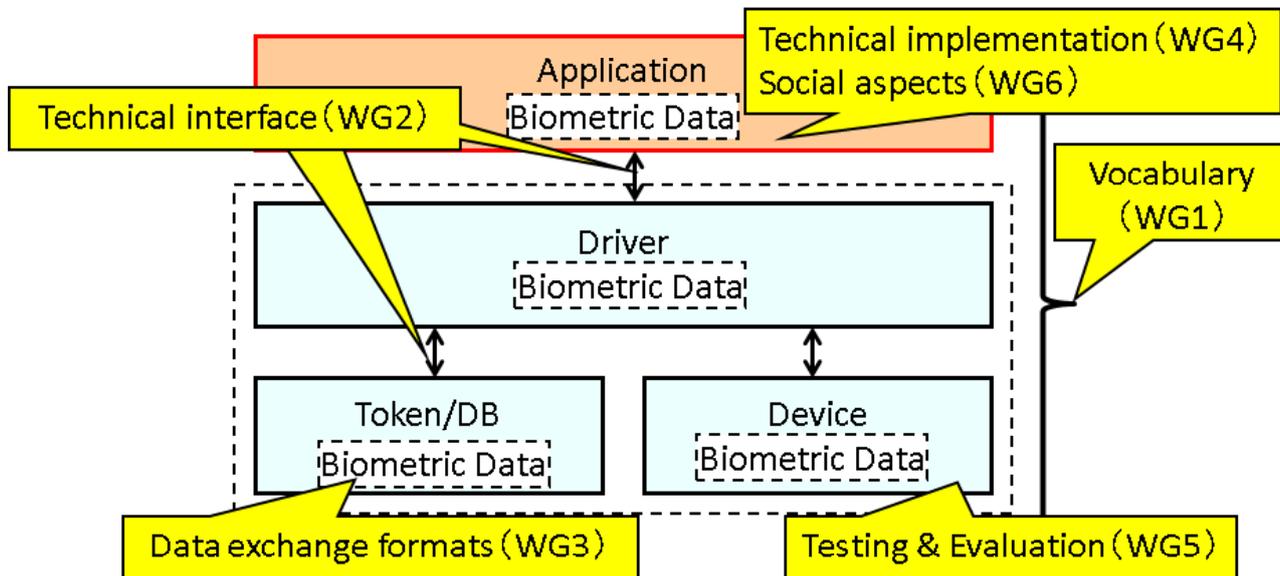
## ISO/IEC JTC 1/SC 37 Biometrics

- 事務局:ANSI(米国)
- 委員長:Fernando Podio(米国 NIST)
- 設立:2002年
- 出版国際標準数:97
- 参加国(Pメンバ):29  
主要参加国:  
オーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、韓国、  
ニュージーランド、ノルウェー、ポーランド、ロシア、シンガポール、  
南アフリカ、スペイン、英国、米国
- オブザーバ国(Oメンバ):12

詳細は、ISOページ参照(”ISO/IEC SC 37”でGoogle検索)

# SC 37のスコープと組織構成

アプリケーション及びシステムにおける相互運用とデータ交換のための、人間に関する一般的なバイOMETRICS技術の標準化



# SC 37の組織 (国際・国内)

	委員長/コンビーナ	国内委員長/主査	国内幹事
SC 37	Fernando Podio (米)	山田朝彦 (産業技術総合研究所)*	浜壮一 (富士通研究所) 諫田尚哉 (日立製作所)
WG 1	Steve Clarke (豪)	溝口正典 (日本電気)	早川昭二 (富士通研究所)
WG 5	Nigel Gordon (英)		山田茂史 (富士通研究所)
WG 2	Young-Bin Kwon (韓)	熊谷隆 (日立ソリューションズ)	福田充昭 (富士通研究所)
WG 3	Christoph Busch (独)	新崎卓 (富士通研究所)	緒方日佐男 (日立オムロン ターミナルソリューションズ) 坂本静生 (日本電気) 松尾賢治 (KDDI研究所)
WG 4	Michael D. Hogan (米)	山田朝彦 (産業技術総合研究所)#	
WG 6	Mario Savastano (伊)		

国内リエゾン: SC 17、SC 31、ISO/TC 68、ITU-T、JAISA

\* : 2013年8月までは瀬戸洋一 (産業技術大学院大学)

# : 2013年度は山口利恵 (東京大学)

# リエゾンと会議

## リエゾン

- SC 37へのISOリエゾン委員会  
SC 27, SC 38, ISO/TC 68/SC 2
- SC 37からのISOリエゾン委員会  
SC 27, SC 38, ISO/TC 215
- ISO以外のリエゾン組織  
IBIA, ILO, ITU, OASIS

## 会議

- 総会年1回(通常は1月)
- WG年2回(通常は1月と7月。1月は総会の前週)  
2012年7月から1年半の間は、総会18ヶ月、WG9ヶ月間隔で開催

# 実績

- ダルムシュタット会議での審議プロジェクト52件
- ダルムシュタット会議以降の投票件数35件  
CD/PDAM 14件, DIS/DAM/DTR 17件, FDIS/FDAM 3件, NP1件
- 2013年度までの発行件数
  - IS 89件(うちAmd(Amendment) 15, Cor(Corrigendum) 19)
  - TR5件
  - SD(Standing Document)21件

## 2. 2014年1月総会報告

## 2014年1月総会

1. 開催場所: ダルムシュタット(ドイツ)
2. 開催期間: 2014年1月20日, 21日
3. 参加国数/出席者数: 14カ国, 11リエゾン/29名

議長(Fernando Podio, 米国), セクレタリ(Lisa Rajchel, ANSI), オーストラリア, カナダ, 中国, フィンランド, フランス, ドイツ5, イタリア, 日本4(山田[産総研], 浜[富士通研], 新崎[富士通研], 坂本[NEC]), 韓国, ノルウェー, シンガポール, スペイン, 英国4, 米国4, リエゾン(SC 17, SC 27, SC31, BioAPI Consortium, IBIA, ILO, JTC1/WG7, SC 38, OASIS BIAS TC, CEN, JTC 1 IT Vocabulary Maintenance Team)

前回2012年7月パリ総会の17ヶ国, 12リエゾン/38名に比べ, 減少.

## 2014年1月総会概要(1)

### 1. SC 37ビジネスプラン

- 今後の取組みとしては、設立当初から大きな変更はない
- 業界及び市場ニーズに基づく標準作成を基本戦略とする
  - 第2世代標準(データ交換フォーマット, インタフェース, 精度評価, データ品質)の作成を進める
  - ID盗難対策としてのバイオメトリクス適用の可能性
  - 新しい分野への取組みとして, DVI(Disaster Victim Identification)へのバイオメトリクス適用, 監視カメラシステムの運用や精度評価の標準など

### 2. SC 37ロードマップ

- 本総会で承認され, SC 37サイト及びWikipediaで公開
- 2014年7月開催のWG後に更新され, 更新版を上記両サイトにアップロード

## 2014年1月総会概要(2)

### 3. SC 37SG (Special Group)再設置

JTC 1のサブグループ(SWGなど)への対応  
SGメンバは, Podio委員長, 各コンビーナなど  
テレ会議やWebEx会議を開催予定

### 4. SC 37委員長承認

Podioの3年延長をSC 37で承認し, JTC 1の承認へ進める

### 5. WG 4のタイトル及びToRの変更

- Technical Implementation of Biometric Systemsに変更  
(Biometric Functional Architecture and Related Profilesから)
- ToRは, バイオメトリクスのシステムの技術実装に関するベストプラクティス・ガイダンス・実装要件などの開発

## 2014年1月総会概要(3)

### 6. CCTVのPJ

- CCTVに関しては2件のNPがあり, 最終的にPJが成立
- 2件のNPへの投票コメントを検討した結果, ふたつを統合し, 以下のマルチパートPJとする
  - ISO/IEC 30137: Use of biometrics in CCTV systems
    - Part 1, Design and specification (WG 4)
    - Part 2, Performance testing and reporting (WG 5)
    - Part 3, Data formats (WG 3)

### 7. リエゾン

- CEN/TS 16428 Best practice for slap-ten print captureをCENからSC 37/WG 4に移行することを合意し, ファストトラックまたはNPへ
- ILOからの船員手帳のバイオメトリック データフォーマットの適合性試験仕様作成への協力要請に対し, SC 37活動内容紹介の返書
- IEC/TC 3/SC 3CへDIS 24779-9に対する寄書への返礼のリエゾンステートメント送付

## 2014年1月総会概要(4)

### 8. ISO/IECへのISO/IEC 19794シリーズ第1版継続出版要請

- ICAOでISO/IEC 19794シリーズ第1版の使用が終了する2033年まで

### 9. SC 17/WG 3との連携のためのSC 37 SGの設立

- SC 17とSC 37で関係するバイオメトリクスのPJに関する議論のため
- SC 37からは委員長, WGコンビーナ, PJエディタ, 関連リエゾンオフィサーが参加
- 次回の総会までに2回のWebEx会議を実施

### 10. SC 27との連携のためのSC 37 SGの設立

- SC 27とSC 37で関係するバイオメトリクスのPJに関する議論のため
- SC 37からは委員長, WGコンビーナ, PJエディタ, 関連リエゾンオフィサーが参加
- 次回の総会までに2回のWebEx会議を実施

### 11. OASISへの要請

- クラウドにおけるバイオメトリクスのPJを提起

## 2014年1月総会概要(5)

### 12. 会議予定

- 2014年7月 WG West Lafayette(米国 実施済)
- 2015年1月 WGと総会 オーストラリア  
(West Lafayetteでスペイントレドに変更)
- 2015年6月 WG イェービク(ノルウェー)

ご清聴ありがとうございました